

「東日本大震災」から半年 セブン&アイグループの現況と対応について

2011年3月11日に発生しました「東日本大震災」から間もなく半年になります。被災された皆様方に、あらためて心よりお見舞い申し上げます。

“半年”を機に、震災発生以降のグループの対応等につきましてお知らせいたします。（なお、発生直後から4月上旬までの状況等に関する詳細については4月7日公表のニュースリリースをご参照ください。）

＜グループの状況・対応等＞

1. グループ店舗の被災・復旧状況について

セブン&アイグループでは、震災発生直後に対策本部を設置し、グループ社員・お取引先様による復旧・復興に向けた応援体制をいち早く整備すると同時に、商品の仕入れ・製造および物流体制の復旧に全精力をあげる等、小売業の使命を全うすべく各店舗の営業再開、営業継続に最大限注力してまいりました。

主要グループ各社の休業店舗数の推移は以下のとおりとなっております。

【グループ各社の休業店舗数】

()内の店舗数は原発避難休業店舗

	震災直後〔3/中旬〕	4月7日	8月31日
セブン・イレブン	約600(23)	60(16)	24(10)
イトーヨーカドー	0	0	0
ヨークベニマル	約100(6)	10(6)	7(5)
そごう・西武	0	0	0

2. 人的支援について

- グループ各店舗の営業再開に向けて、本部から応援部隊を派遣
- セブン・イレブンでは本部社員延べ約300名が店舗内の清掃・片付けや建物の点検・補修等を実施、数百店における早期の営業再開を実現
(「震災復興応援」チーム約35名が現在も活動を展開中)
- イトーヨーカドーでは、東北地方等の6店舗に対して本部や他地区の店舗より、延べ約180名の社員を派遣し再建支援を実施

- ヨークベニマルについては、セブン&アイグループ各社から約 20 名の社員を福島県に派遣し、物流センター等の復旧応援活動を展開
- 本部社員によるボランティア活動として、セブン-イレブン記念財団による企画「東日本大震災復興プロジェクト」にセブン&アイグループとして参加。
6月10日～12日にかけて約50名が気仙沼周辺で復興応援活動を実施
(第2回のボランティア活動を9月16日～18日に実施予定)



セブン-イレブン店舗での復旧応援



ヨークベニマル物流センターでの復旧応援

3. 物資や義援金等の救援活動について

【緊急支援物資の提供について】

- 震災発生直後に、被災地への緊急支援物資提供を決定。水やおにぎり等の緊急支援物資を手配
- 震災翌日にヘリコプターおよび陸送による輸送を実施。被災地の災害対策本部等にお届け(その後も行政等の依頼を受けて支援物資の提供を継続)
- イトーヨーカドーでは、NGO、ワールド・ビジョン・ジャパンやJENを通じて、宮城県気仙沼市や南三陸町、石巻市、岩手県宮古市等の仮設住宅約8,600世帯へ、台所用品や布団等の生活物資を供給
- 内閣府や災害対策本部、自衛隊、各自治体等、約70団体からのご依頼にグループで対応



ヘリコプターによる緊急輸送



陸送で対策本部へ物資をお届け

【寄付金・義援金について】

- 国内のグループ約 14,000 店舗の店頭をはじめ、WEB サイト等での募金活動を実施し、義援金の総額は合計で 41 億円
- 国内では、企業およびトップからの寄付金をあわせ、総額約 36 億円を各県や赤十字等を通じて被災地にお届け
- 海外では、世界 11 ヶ国のセブン-イレブン約 25,000 店舗も店頭募金を実施。合計約 4 億円を各国の赤十字等を通じて寄付
- デニーズでは一食につき会社とご賛同いただいたお客様より各 20 円計 40 円が寄付されるメニューを販売。7 月末までに 3 回実施し、約 376 万円を日本赤十字を通じて被災地にお届け

4 . 被災地におけるお買物支援について

- 7 月 30 日より、宮城県亘理郡山元町の仮設住宅にお住まいの方に対して、NTT 東日本の「光 i フレーム」を利用した買物支援サービスを展開
- グループの「イトーヨーカドー ネットスーパー」「セブンミール」「セブンネットショッピング」のサービス等をご提供中
- 9 月 3 日からは、福島県二本松市の仮設住宅にお住まいの方に対して、同様のサービスをご提供予定（対象自治体：福島県双葉郡浪江町）。仮設住宅を対象としたお買物支援サービスとして福島県内では初の展開



「光 i フレーム」画面



「光 i フレーム」操作方法等の説明会

5 . 生活応援およびグループ力を活かした商品調達について

- セブン&アイグループでは、被災された方々や生産地への支援、お客様の生活応援を目的にセールやフェアを積極的に展開
- セブン-イレブンでは、3 月下旬以降「おにぎりセール」、「中華まんセール」等のセールを昨年以上の頻度でほぼ毎週実施
- イトーヨーカドーにおいても、3 月下旬以降「茨城を応援します」フェア、東北地方の生産者支援を目的とした「がんばろう東北」フェア等を積極的に実施
- 首都圏等の店舗で商品の品薄感が出た際には、グループ全体としてメーカー様と調達交渉をすることで通常以上の商品供給を継続
- また、海外からの調達力を活かし、各店舗では 4 月下旬より台湾の 7-Eleven のオリジナル飲料水等を販売

6 . 被災された地元水産業への支援について

- おでんの基本具材「焼ちくわ」の原材料（すけそう鱈の“生すり身”）をセブン-イレブン専用原料として供給していただいていたメーカー様が、今回の震災で被災されましたが、“生すり身”用のラインは奇跡的に難を逃れ、その後も商品供給に向けて全力でご対応いただく
- かねてよりイトーヨーカドーとお取引のあるメーカー様も被災されながらも「三陸産ワカメ」等の供給・製造にご尽力いただく
- 上記のように、セブン-イレブンやイトーヨーカドーでは、これまでと変わらず、お取引先様とのお取引引きを継続、原材料の購入という形で被災地の水産業を支援

7 . 節電対応

- グループ各店では、電力不足に対応して3月中旬より節電策を実施
- セブン-イレブンにおいては、店内照明・店頭誘導看板等のLED化、太陽光パネルの設置等を進めることで昨年比20%~25%の削減に取り組み中
- イトーヨーカドーにおいても、搭屋看板や店頭ネオンサイン等の照明を消灯、売場のスポットライトや電飾看板を削減する等、15%以上を削減すべく対応中
- 社員に家庭での省エネを促す「省エネキャンペーン」(電力使用量を昨年比15%以上削減することが目標)を実施中
- 8月16日より『セブンプレミアム LED 電球』をセブン-イレブン・ジャパン、イトーヨーカドー、ヨークベニマル、ヨークマートにて発売



『セブンプレミアム LED 電球』

- ・ LGジャパン株式会社との共同企画
- ・ 従来の白熱電球に比べ消費電力を約80%カット、寿命も従来の白熱電球の40倍となる40,000時間を実現
- ・ 価格は同規格の他社製品と比較して約半額（弊社調べ）

<セブン - イレブンの状況・直近の取り組み等>

1．店舗の営業状況等（8月31日現在）

	店舗数	震災直後 休業	4/7 休業	8/31 休業
岩手県	72	約 60	0	0
宮城県	337	約 300	34	12
山形県	143	約 70	0	0
福島県	375	約 120	24	12
茨城県	543	約 50	2	0
合計	1,470	約 600	60	24

8月末の福島県内休業中12店舗のうち10店舗は福島原発の影響による避難休業店舗です。

避難休業店舗以外の休業中店舗（14店舗）については、現在も改装中（一部店舗では移動販売を実施）もしくは他立地への移転を中心とした支援策を検討しております。

2．移動販売について

- 4月13日に宮城県多賀城市、仙台市で移動販売を本格的に開始
- セブン-イレブン専用の冷蔵配送車（2t 車）の内部を改造し、車内におにぎりやお弁当を陳列（約100アイテム）
- 各店舗の駐車場を販売拠点として周囲の事業所や復旧作業現場等で移動販売
- 累計で約20店舗が移動販売を実施（8月末現在、約5店舗で実施中）
- 5月21日より、セブン銀行ではセブン-イレブンの移動販売車との連携で、宮城県内で「移動ATM号」のサービスを実施



移動販売の様子



移動ATMサービス

3 . 仮設店舗について

- 7月27日に宮城県内の仮設住宅敷地内で初の仮設店舗となる「気仙沼公園仮設店舗店」、および「岩沼流通工業団地仮設店舗店」がオープン
- 8月6日に「志津川天王前仮設店舗店」、9月1日には「石巻吉野町仮設店舗店」が開店し、現在4店舗が仮設店舗として営業中
(気仙沼公園仮設店舗店ではセブン-イレブン専用の移動販売車「セブンあんしんお届け便」を活用した移動販売も実施中)



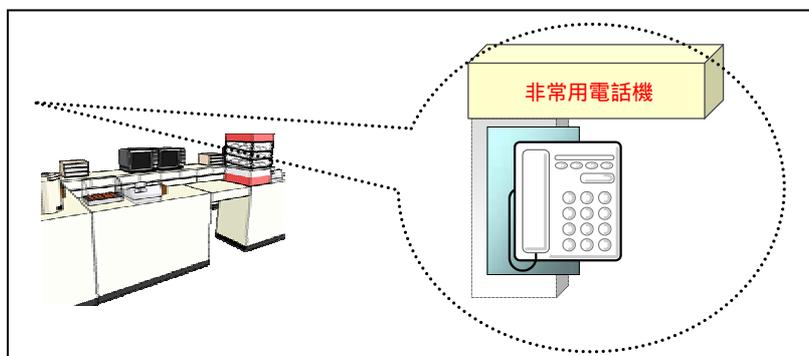
仮設店舗外観（気仙沼市）



移動販売車（気仙沼市）

4 . 23 区内の店舗に設置する非常用電話機について

- 災害等の非常時に備え、今秋より、東京 23 区内の全てのセブン-イレブン店舗（約 1,200 店舗のカウンター等）に、NTT 東日本の非常用電話機（特設公衆電話）を設置予定
- 震災等が発生した際は、最寄のセブン-イレブン店舗で、お客様が無料で安否確認等の緊急連絡をご利用可能に
- 今後順次、電話だけでなく無線ブロードバンド環境もご利用可能となり、店舗がいざという時の「情報ステーション」としての役割を果たすことに



非常用電話機 設置イメージ

< イトーヨーカドーの状況・直近の取り組み等 >

1. イトーヨーカドーの営業状況等

- 震災発生後、東北エリア 10 店舗のうち、仙台泉店・石巻あけぼの店（宮城県）平店（福島県）等の店舗が影響を受けたものの、各店とも、店内でお買い物をされていたお客様や従業員にケガ人がいないこと、店舗建物における大きな損傷や火災発生がないことを確認の上、営業再開の準備に取り掛かる
- 石巻あけぼの店（宮城県石巻市）ではお客様や従業員の安全面、店舗建物への損傷がないことを確認した後、飲料水や即席めん、乾電池等の生活必需品を集め、震災当日の 18 時より店頭にて営業再開
- 震災翌日からは全店舗で営業再開（部分営業、店頭営業含む）



イトーヨーカドー 店頭販売の様子

2. 「防災・防犯コーナー」について

- 8月17日より、イトーヨーカドー130店舗で過去最大の500アイテムを集めた「防災・防犯コーナー」を展開中
- ひとりが5日間生活可能な「防災セット5日分」や、ご家庭のコンセントや車のシガーソケットからも充電出来る家庭用の充電器、また、ペダルをこいで回して充電しLEDライトとしても持ち運べる充電器等、様々な防災関連用品を品揃え
- 今後、当該コーナーは基本的に年間を通じて展開予定



「防災・防犯コーナー」全体



「防災・防犯コーナー」商品棚

3. 「朝市」「夕市」の開催について

- 6月29日より、今夏の節電に伴う生活時間帯の変化に対応する取り組みとしてタイムセールの「朝市」「夕市」を開催
- 「朝市」は、主に精肉・鮮魚の生鮮品やフルーツ、おやつ等をご提供
- 「夕市」では、簡単便利な夕食メニューの提案や、できたて惣菜等をご提供



イトーヨーカドー店舗 「夕市」の様子

4. “エンタメで復興支援”パブリックビューイングについて

- 8月27日、28日に、岩手・宮城・福島のイトーヨーカドー6店舗にて、“エンタメで復興支援”をテーマに、エイベックス所属タレントによる夏フェス「a-nation」のパブリックビューイングを開催
〔花巻店、石巻あけぼの店、仙台泉店、福島店、郡山店、平店で、国内最大級の野外フェスティバル『a-nation 10th Anniversary for Life Charge & Go ウィダ - in ゼリ-東京公演』の模様を大型モニターで生中継〕
- 各会場とも用意した約300席が満席となり、「a-nation」関連グッズの販売も好調に推移する等、多くのお客様からご好評をいただきました



イトーヨーカドー店舗 パブリックビューイングの様子

5. 商品の“安全・安心”に向けた取り組みについて

- イトーヨーカドーでは、従来より商品の産地や生産方法等のトレーサビリティ（生産履歴）ならびに品質管理に注力
- 放射性物質を含む稲わらを肉牛に与えていた問題で、イトーヨーカドーでは今回の件を受けて、これまで実施してきた自主基準・自主検査体制等をさらに強化
- 取引先メーカーとの連携による放射性物質の全頭検査を開始
- 7月28日より一部の国産牛肉の検査を開始、8月10日からは、店頭に並ぶ全ての国産牛肉が検査基準をクリアしたものに（放射性物質の検出量が国の暫定規制値を下回った牛肉のみが店舗に納品される仕組みを構築）

<店頭表示ボード>

安心して
お買い求めください。

放射性物質
自主検査済み

放射性物質
検査済み

このシールが
安心安全の
証です。

イトーヨーカドーで販売する国内産の牛肉は
全頭検査済み

お取引先様のご協力をいただき、放射性物質に関する検査を実施しています。

放射性物質の自主検査は、放射性物質の検出量が国の暫定規制値を下回った牛肉のみが店舗に納品される仕組みを構築しています。

<オリジナルブランド「顔が見えるお肉。」店頭表示ボード>

安心をお届けするための
「3つの取組み」

このシールが
安心安全の
証です。

取組み1 全頭自主検査
全頭に対して、放射性物質に関する自主検査を実施します。

取組み2 稲わら調査
全産地について、稲わらの産地・購入元の調査を実施します。
また、各産地で購入元が変更になった際にも、稲わら調査を実施します。

取組み3 飲用水検査
全産地について、事業終了後の放射性物質検査を実施します。

顔が見えるお肉。
鹿児島県産
黒毛和牛

以上